

第2回スタートアップ政策推進分科会 説明資料

～柱2:ディープテック・スタートアップの支援～



令和8年3月16日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

SBIR制度(柱2関係)

これまでの主要施策

①SBIR制度の見直し(令和3年度～)

- ・国が取り組むべき社会課題を解決する製品やサービスを開発・事業化しようとするスタートアップ等に対して、基礎研究から事業化フェーズまでを支援。
- ・スタートアップ等が応募しやすく、使いやすい運用に改善。

②大規模技術実証支援

- ・令和4年度補正予算により、「SBIRフェーズ3事業」を開始。
- ・スタートアップが行う大規模技術実証119件を採択し、支援。
- ・本事業の公募は既に終了し、選定された案件の支援を進めている。

ヒアリングを通じた現状分析(代表的な意見)

	スタートアップ側	省庁側
成果	<ul style="list-style-type: none">・大規模技術実証により、試作品開発が完了し、初期顧客に製品を使ってみてもらった上で販売に向けた意見を収集する段階に進んだ。・SBIR採択により社会的信用が向上し、資金調達や営業がしやすくなった。	<ul style="list-style-type: none">・JST及びNEDOの有するネットワークにより、自省だけではリーチできなかった研究者や事業者にも公募等の情報を提供することができ、制度を利用してもらえるようになった。
課題	<ul style="list-style-type: none">・フェーズ3の新規公募があれば挑戦したいが、公募されていない。・採択後に実証場所の提供に協力してくれる政府関係機関や地方自治体を探すのに時間と手間がかかる。	<ul style="list-style-type: none">・国・地方の行政機関等が調達する前に、現場で使ってフィードバックすることを繰り返す試験的導入を行いたいですが、仕組みや予算がない。

対応の方向性

スタートアップが行う大規模技術実証の支援拡充と スタートアップによる新製品や新サービスを試験的に導入し評価する仕組みの構築

- スタートアップ等の研究開発の進展や新たな社会課題に対応すべく、スタートアップの新たな大規模技術実証を支援する仕組みを構築。
- スタートアップ等の研究開発成果を政府関係機関が試験的に導入し、一定期間の導入効果を評価できる仕組みを構築。

參考資料

SBIR (Small/Startup Business Innovation Research) 制度とは

狙い

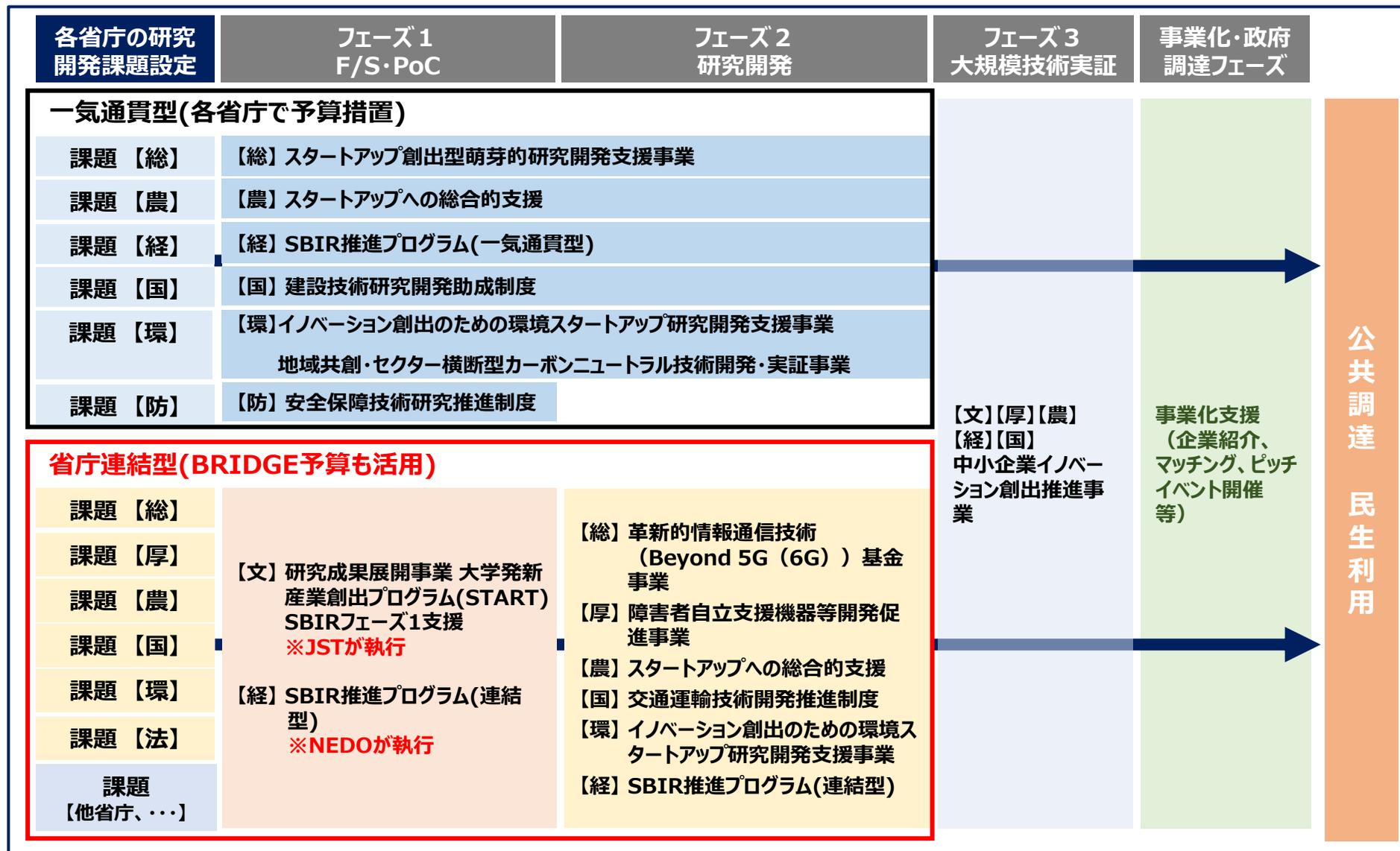
スタートアップ等による研究開発とその成果の事業化を支援することによって、革新的な技術を社会実装していくことで我が国が直面する様々な社会課題を解決に導くとともに、我が国のイノベーション創出を促進する。

各フェーズの支援イメージ

- SBIRフェーズ1：概念実証（PoC）や実現可能性調査（FS）等の支援
期間：1年以内、金額：300～3,000万円
- SBIRフェーズ2：実用化研究開発支援
期間：1～2年程度、金額：1,000万円～数億円程度
- SBIRフェーズ3：大規模技術実証支援
期間：最長5年以内、金額：技術分野に応じた規模

各省庁が実施しているSBIR関連制度

9府省庁が参画し、「一気通貫型」と「省庁連結型」によって研究開発を実施。このうち、省庁を横断する「省庁連結型」について、内閣府のBRIDGE事業で連携を促進。



株式会社 エキュメノポリス

SBIRによる支援

フェーズ1(R3年度) JST SBIR連結型フェーズ1

フェーズ2(R4年度) NICT Beyond 5G研究開発促進事業

ユーザーとの対話を通じて推定したユーザーの興味に基づき、様々な提案を行う独自のAI技術・システムを開発



会話AI技術を核にした事業展開

- ・会話AI技術を応用し、ユーザーとシステムとのインタラクティブな英会話を通じて、正確な英会話能力を判定するサービスとして事業化 (LANGX Speaking)

会話AIエージェントを教育や仕事の現場に展開

- ・英語スピーキング能力診断サービス「LANGX Speaking」の早稲田大学での正式導入を経て、他大学、小中高学校、英会話学校、その他の教育機関および一般機関向けに予約受付開始 (令和5年5月)

株式会社 天地人

SBIRによる支援

フェーズ1(R3年度) NEDO SBIR連結型

フェーズ2(R4年度) 国交省交通運輸技術開発推進制度

静止衛星と低軌道地球観測衛星による観測データを複合解析し、高頻度かつ高解像度に地表面温度情報を得る独自のコア技術を開発



衛星データ分析技術を核にした事業展開

- ・温度データに加え、水道データや地上データを複合解析し、水道管のAI管路診断サービスとして事業化 (宇宙水道局)
- ・経産省SBIRフェーズ3にて、太陽光発電や風力発電の適地評価技術への展開を目指し、大規模実証を実施中(令和6~8年)

地方自治体からの漏水リスク管理システム受注

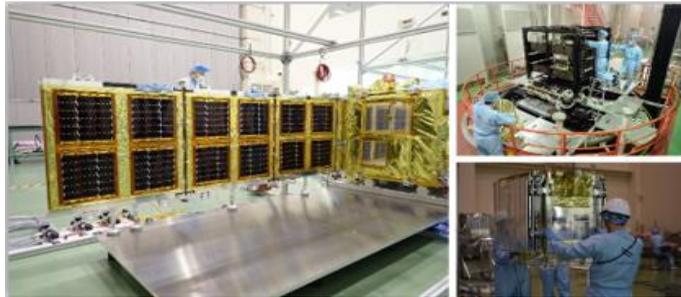
累計契約自治体数20を超えたと発表 (令和6年8月)

SBIR制度によるスタートアップの大規模技術実証の支援

- スタートアップの先端技術分野における大規模技術開発・実証段階を支援するため、令和4年度第二次補正予算でSBIRフェーズ3基金事業を（2,060億円）新設。
- 実施5省※において令和5年7月～令和6年6月に公募、計119プロジェクトを採択し、支援している。
※実施5省：文科省、厚労省、農水省、経産省、国交省
- 採択後に上場した企業は7社（令和7年9月時点）。

実証の例

株式会社Synspective
SAR衛星活用の開発・実証【経】



日次干渉SAR解析向け画像のテスト観測に成功（令和6年6月）。

株式会社Helical Fusion
核融合に必要な要素技術の開発【文】



独自の超伝導導体の通電実証や、開発中の超伝導コイルの冷却試験（令和7年7月～）を実施。

株式会社ティアフォー
自動運転技術の開発・実証【国】

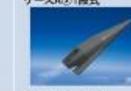
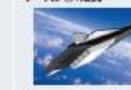


石川県小松市（令和6年10～11月）、長野県塩尻市（令和7年1～2月）等の公道において自動運転バスの実証実験実施。

(参考) フェーズ3の主要な技術実証プロジェクトの例

01 民間ロケットの開発・実証

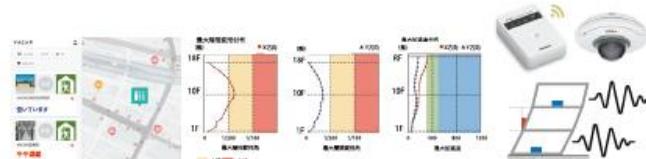
国際競争力を持ったロケットの開発・飛行実証を行うスタートアップ企業を支援する。

	①サブオービタル宇宙飛行	②オービタル宇宙飛行	③LP2P (高速2地点間輸送) 旅客輸送
A 垂直離陸 / 水平着陸 ロケットエンジンのみ	ケースA①1段式 	ケースA②2段式 	ケースA③1段式 
B 水平離陸 / 水平着陸 空母搭載エンジン等	ケースB①1段式 	ケースB②2段式 	ケースB③1段式 

実用衛星打上げシステム技術

02 防災技術

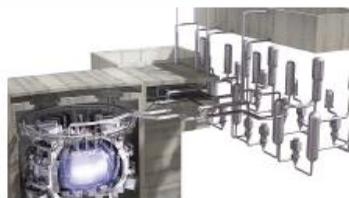
デジタル技術を用いた避難所運営業務の自動化・効率化を実現するソリューションを組み合わせて、自治体の業務負荷の軽減と情報基盤の統一化、住民向けのリアルタイムでの情報発信等の実証を目指す。



センシング技術、統合・解析技術、UI/UX等の開発、自治体での実証

03 核融合技術群の実証

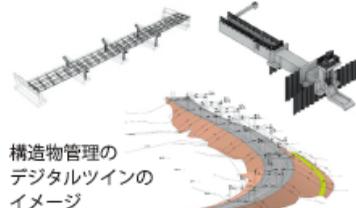
国内外の核融合関連装置への実装を目指す、核融合発電の実現に必要な要素技術群の実証を行うスタートアップ企業を支援する。



核融合関連装置への実装

04 デジタルツイン

構造物の三次元データを取得し状態把握を行うとともに、それらデータを活用してデジタルツインを構築し、効率的な維持管理の実現に向けて検討を行う。



構造物管理のデジタルツインのイメージ

05 スペースデブリ低減に必要な技術開発・実証

軌道上でスペースデブリとなった衛星等の除去を行うために不可欠となる革新技術・システム開発・実証や、小型衛星等が運用終了後に速やかに軌道離脱することを促進するための技術・コンポーネント開発・実証を行い、これらを利用したサービスの事業化の世界展開を目指すスタートアップ企業を支援する。



株式会社アストロスケール

06 空飛ぶクルマ

機体開発メーカーである、株式会社SkyDrive、テトラ・アビエーション株式会社の2者を採択。株式会社 SkyDrive は、2025年大阪・関西万博での二地点間飛行に向けたマルチコプタータイプの機体開発や、機体の量産に必要な型式証明取得のための試験等を実施する。

テトラ・アビエーション株式会社は、固定翼を備えたリフト・クルーズタイプの空飛ぶクルマを開発し、米国の制度を活用した早期の認証取得を目指して、飛行試験等を行う。



株式会社 SkyDrive

テトラ・アビエーション株式会社

07 自動運転 (公共交通)

スタートアップ等からなるコンソーシアムを形成し、SIPの成果や各社の強みを活かして自動運転技術の開発を進めるとともに、地域公共交通における自動運転実証等を開発にフィードバックすることで自動運転技術の開発を加速化し、自動運転移動サービスの普及実現を推進する。



自動運転プログラム

大型車の制御

08 SAR衛星活用

今後のSAR衛星の新規打ち上げ計画、利用技術の進捗を見据え、必要に応じてLP等の地上のデータと組み合わせることを行いつつ、直轄国道や直轄河川・砂防での現場等における実証を通じ、それらの技術の適用可能性を検証し、現場のニーズに対応したSAR衛星画像解析の活用を推進する。



©Synspec Inc. All Right Reserved
成田空港周辺の圏央道

09 スマート農林水産業・食品分野の技術開発実証

食料・農林水産分野における作業の自動化や、データを活用した精密な生産システムの構築による生産性の向上を図るための技術実証を行う。

<開発項目(例)> 園芸作物の収穫・農業散布ロボット、総菜工場の製造工程の全自動システム、豚舎の飼養管理全体のデータ管理、森林伐採作業の自動化、AIによる漁船の操業監視システムの開発・実証等



トマト収穫ロボットのハウス実証

豚舎のDX化

10 AIホスピタル

<医療現場のニーズに即した医療AI技術の開発・実証>

検査手順

スタートアップ企業と医療機関が協働して、医療現場のニーズに即した医療AI技術の開発を加速し、AIホスピタルの社会実装を推進する。

<開発項目(例)> EHR連携 AI電子問診票の実装、救急医療業務改善ツールの開発と社会実装、認知機能・フレイル評価のためのAIシステム・デバイスの開発等



タブレットのフロントカメラで視線を捕捉する
アイトラッキング式 認知機能評価法

今後政府として、全てのプロジェクトについて
技術実証成果の社会実装に向けた具体策（政府調達、規制緩和標準化ほか）を示した
ロードマップを作成し、技術実証期間中に公表を予定

SBIRフェーズ3 採択後に
資金調達に成功した企業は

76 社

計 2,873 億円調達

※2025年9月末時点

※内閣府調べ（採択事業者90者から回答）

SBIRフェーズ3 採択後、国内の民間からの調達額（融資、出資を含む）、国内の公共（政府・自治体）からの調達額（融資、出資を含み、SBIR制度の補助金は除く）、海外からの調達額（融資、出資を含む）の合計値

SBIRフェーズ3採択後に

7 社 が上場

※2026年2月末時点

会社名（上場日）
① 株式会社QPS研究所（2023年12月6日）
② 株式会社アストロスケールホールディングス（2024年6月5日）
③ 株式会社Liberaware（2024年7月29日）
④ Terra Drone株式会社（2024年11月29日）
⑤ 株式会社Synspective（2024年12月19日）
⑥ ダイナミックマッププラットフォーム株式会社（2025年3月27日）
⑦ 株式会社ZenmuTech（2025年3月27日）

※会社名は上場した当時の名称